



大砂土中だより

はっ らっ  
澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.9 平成29年 1月6日号

3秒

校長 清水 一司

新春のお慶びを申し上げます。

去年は、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えをいただき、実りある年にすることができました。本校教育活動に対する皆様のご協力に感謝申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、先月4日に山梨県南アルプス市櫛形総合公園特設周回コースを会場に開催された「第25回関東中学校駅伝競走大会」に、本校男子駅伝チームが出場しました。本校男子駅伝チームは、さいたま市大会で準優勝、埼玉県大会で3位に入賞し、埼玉県代表として関東大会への出場が叶ったものです。大会は関東各都県を勝ち抜いた33校が、全6区間17.5kmで競いました。関東大会ということでもあり、序盤から高速レースとなりましたが、本校選手たちは1区から上位に位置する走りを見せ、54分44秒で6位に入賞することができました。本校男子駅伝チームは部活動ではありません。駅伝に挑戦したい者が集まり「本来所属している部活動に影響がないように活動する」「部活動で身に付けた力を駅伝に生かし、駅伝で身に付けた力を部活動に生かす」ことをコンセプトに7月から活動してきました。したがって他校に比べて練習量が豊富とは言えない状況でしたが、工夫して練習に取り組むことで勝ち取った栄誉と言えるでしょう。

関東大会前夜に17名のメンバー一人ひとりに関東大会への意気込みを語ってもらう場を設けました。メンバーはそれぞれ「駅伝練習に参加したことで得られたこと」「本番のレースでベストの走りをしたこと」「選手を全力でサポートしたいこと」などを語ってくれました。キャプテンで3年生の小杉君は「前回の埼玉県大会は3秒差で関東大会出場を逃してしまった。この3秒が一年間ずっと僕を苦しめてきた。」と語っていました。小杉君は、前回の埼玉県大会をアンカーとして申し分のない記録で走り、本校を5位入賞に導いてくれたメンバーです。十分に胸を張れる活躍だったものの、小杉君にとって関東大会を逃した3秒は一年間も自分自身を苦しめるものだったのです。

「私は勝ち続けることで成長したのではなく、負けて強くなってきたのです。」

これはオリンピック女子レスリング3連覇を成し遂げ、国民栄誉賞も受賞した吉田沙保里選手の言葉です。確かに、勝ち続けている人は慢心することがあります。反対に悔しさを胸に努力を続ける人が最後に強くなることは多くあります。その悔しさを味わわせてくれるのが負けることなのです。前回の駅伝メンバーも、今回のメンバーと同様に非常に高い力をもっていました。しかし、競う舞台が高ければ高いほど他校も同じような力をもっているものです。それ故に、前回の埼玉県大会では3秒差に涙をのんだのです。

今回の埼玉県大会や関東大会で本校が輝かしい成績を収めることができたのは、他校に心のゆermiがあったからではないと思っています。それよりは、前回の埼玉県大会で悔しい思いをしてきた選手たちが、悔しい思いを胸にライバル校以上に努力をしたことが結果となって表れたのだと考えています。

大砂土中学校の誇りを胸に仲間を信じて懸命に襷をつないでくれた選手たち、ゴール直後に倒れるほど力を尽くしてくれた選手たちには、昨年涙をのんだ3秒があったからこそその強さがあると感じました。